

## 平成24年度 島根大学「重点研究部門」研究プロジェクト 計画書

<b>1. プロジェクト名称</b>	山陰地方における地域社会の存立基盤とその歴史的転換に関する研究					
	(英訳名)	A Study on Existence Base of Communities in San-in district and its Historical Changes				
<b>2. プロジェクトリーダー</b>	所属	法文学部	職名	准教授	氏名	小林 准士
	現在の専門	日本近世史			学位	修士
<p><b>3. プロジェクトの概要</b> ①本研究プロジェクトで何をどこまで明らかにするか、②国際的な視野からプロジェクトの必要性・重要性・ユニークな点、③島根大学で行う意義・大学の発展にとって期待される効果、④成果の教育への還元・若手研究者育成プランについて簡潔に記入してください。</p> <p>本研究は、山陰地方を調査・研究の対象として、地域社会の存立基盤とその歴史的変容過程を明らかにすることを課題としている。具体的には、18世紀から現在までのうち、とくに歴史的転換期に着目し、かつて地域社会が遭遇した存立の危機の克服過程、および山陰地方において人口減少が進行する歴史的要因と地域が抱える課題について明らかにすることを目的とする。</p> <p>地域に人々が居住し生活する条件は時期によって異なるが、18世紀後半以降、域外との経済的関係の変化等の事情により、地域社会がたびたび存立の危機に遭遇してきたことは先行研究や諸史料によりすでにある程度明らかになっている。本研究では、いまのところ、こうした危機に直面した時期として、19世紀前半、19世紀末から20世紀前半、高度成長期以降という3期に注目し、危機とその克服の試みについて明らかにすることを予定している。</p> <p>また、地域社会の動向をはかる指標としては、とくに人口の増減に注目する。なぜなら、現在、山陰地方が直面する地域社会の危機が過疎化や集落の消滅というかたちで顕著に表れているからである。したがって、18世紀末以降における人口の増減と地域的分布の変化を統計学的に把握することを、研究全体の基礎作業として位置づけ、これらの変化の要因を各時期に即して分析する。また、特に島根県域に即して地域ごとの産業構成の特徴やその変化等についても統計資料により把握する。</p> <p>ただし、こうした分析にあたっては、対象地域を限定する必要があるため、近世以来の人口学的データが豊富な石見地方東部(とくに海岸部)をおもに取り上げることとし、そのうえで、とくに同地域における諸産業の消長を、人口変化の要因とみなして考察する。産業の消長は就労・雇用の機会と深く関わるからであるが、いっぽう、産業の消長自体は、市場・産業構造、流通網・交通体系等の変化、経済政策等の事象と関わっている。これらの事項について学際的な研究を進め、総合的な把握をめざすことが本研究の特色である。また、歴史的分析和現状分析の結合を通じて、過去の経済政策の効果を検証し、そのうえで、全体の基礎作業である統計学的分析に基づいた今後の見通しを示す。</p> <p>このように、かつて島根大学が取り組んできた山陰地方を対象とした共同研究の成果を継承して、同地方が現在直面している課題の解決をめざした研究に取り組むことで、地域の研究拠点としての大学の機能を拡充することが可能である。また、島根大学が所蔵する地域の歴史資料の有効な活用を図るという点においても、大学による地域貢献として位置づけられる。さらに、プロジェクト推進担当者は30代から40代が中心で大学院生も参加しており、若手研究者の育成にも繋がると考えられる。</p>						
<p><b>4. 本学の中期目標・計画または大学憲章アクションプランとの関係</b></p> <p>本学のアクションプランでは、石見銀山、たたら製鉄、中世史、近世史という分野の研究推進がうたわれている。本研究では、特に近世以降における地域社会の存立基盤の検討を通じて、石見銀山やたたら製鉄等についても触れることにしており、アクションプランの方針と合致している。</p>						
<p><b>5. 平成23年度の主な成果</b> 特に重要なものを箇条書きにしてください</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 石見国邇摩郡今浦(現、大田市温泉津町)の宗門人別改め帳の解読とデータベース化により、一漁村の長期にわたる人口変動(18世紀後半～19世紀前半)とその直接的要因(自然増)について明らかにできた。</li> <li>2 島根県の集落データベースの構築により現在における過疎化の進行状況の地域差について把握できた。</li> <li>3 石見東部のたたら製鉄の盛衰について、出雲地方のたたら製鉄と比較することで要因について一定程度明らかにできた。</li> <li>4 人口変動の要因解析に関わる対象地域の諸産業については、概況を把握することができた。</li> </ol>						

**6. プロジェクト推進担当者** 平成24年度に限って記入してください。 計 12 名

ローマ字 氏名	所属部局(専攻など)・職 名	現在の専門 学位	役割分担
(プロジェクトリーダー)			
小林 准士 (Kobayashi Junji)	法文学部(日本近世史)・准教授	修士(文学)	全体の総括。近世史部分の調査・研究
竹永 三男 (Takenaga Mitsuo)	法文学部(日本近現代史)・教授	博士(文学)	近現代史部分の調査・研究
関 耕平 (Seki Kouhei)	法文学部(財政学)・准教授	修士(経済学)	高度成長期以降の産業政策
作野 広和 (Sakuno Hirokazu)	教育学部(人文地理学)・准教授	修士(文学)	過疎化の地理学的分析
伊藤 康宏 (Ito Yasuhiro)	生物資源学部(水産史)・教授	博士(農学)	漁業史、勸業政策の分析
中安 恵一 (Nakayasu Keiichi)	人文社会科学部研究科2年生	学士(芸術)	19世紀の人口移動と生業との関わりの研究
橋本 貴彦 (Hashimoto Takahiko)	立命館大学経済学部(統計学)・准教授	博士(経済学)	近代以降の統計情報の分析
廣嶋 清志 (Hiroshima Kiyoshi)	法文学部名誉教授(人口学)	修士(工学)	統計の人口学的分析
仲野 義文 (Nakano Yoshifumi)	石見銀山資料館館長(鉱山史)	学士(文学)	近世の産業史・流通史の研究
鳥谷 智文 (Toya Tomofumi)	松江工業高等専門学校(産業史)	修士(文学)	近世の産業史・流通史の研究
藤山 浩 (Fujiyama Kou)	島根県中山間地域研究センター(経済学)・研究企画監	博士(マネジメント)	過疎化の地理学的分析と地域マネジメントに関する研究
北山 幸子 (Kitayama Sachiko)	立命館大学国際関係学部(経営学)・嘱託講師	博士(経営学)	高度成長期以降の産業政策

**7. 関連分野研究者** 当該研究分野に精通し、かつ、当該研究内容を的確に理解・評価できるとされる本学以外の研究者を2～3名記入してください。(平成23年度から変更がなければ記入の必要はありません。)

(氏名)	(所属機関・部局・職)	(現在の専門)	(連絡先 e-mail)
保母 武彦	島根大学名誉教授	財政学	thobo1942@yahoo.co.jp
相良 英輔	広島経済大学・教授	歴史学	es-saga@hue.ac.jp

**8. 配分経費** (単位:千円) 25年度は24年度と同額をカッコ内に記入してください。

年度(平成)	24	25	合計
配分経費(千円)	3000	3000	( 6000 )

## 9. 研究計画および達成目標

### [平成24年度]

**【計画概要】** 必要に応じてサブテーマ毎に記入してください。サブテーマには A,B,C,・・・の記号をつけてください。

- A 大田市域を中心として本研究に関連する史資料の所在調査及び整理と、人口及び産業に関わる統計資料のデータ入力を進める（研究全体の基礎作業）。
- B 人口転換期（20 世紀前半）における島根県域の人口推移をいくつかの地域（旧村単位）に即して明らかにし、人口変動とその地域的差異の要因について解析を行う。また、昨年度作成した 2000 年～2010 年の島根県の人口に関する集落・地区データベースをもとに、GIS を用いて小地域単位の人口データを地図化し、過疎化進展の要因について明らかにする。
- C 島根県内の地域ごとの産業構成の特徴やその変化等について統計資料により把握したうえで、漁業、製鉄、窯業等の産業の動向について個別に分析する。なお、この作業は B の作業で把握した傾向を分析し要因を明らかにするために行う。
- D 地域格差が問題とされるようになった 19 世紀末以降における地域振興策について検討し、その特徴と歴史的意義について明らかにする。

<b>【研究項目】</b> サブテーマ毎に主要な研究項目を箇条書きで記入してください。研究項目には A-1,A-2,・・・の様に番号をつけてください。	<b>【達成目標】</b> 対応する研究項目に対して第三者が達成できたと判断できる具体的な目標を記入してください。	<b>【達成期限】</b> 年度途中に設定する場合のみ記入してください。
A1 大田市域を中心とした史料の所在調査	所在が確認されれば整理を開始する。	
A2 島根県立図書館蔵「石見国安濃郡神原村文書」の整理	整理作業を進め目録を作成する。	
A3 島根県立図書館蔵「内藤正中氏旧蔵資料」の整理	概要の報告を研究会で行う。	
A4 近世の宗門人別改め帳のデータ入力	既入力データの精緻化。	
A5 大田市域旧村役場文書の統計資料のデータ入力(人口・産業) *A4 を前提とする。	2～3の旧村について統計データを作成する。	
B1 A4,A5 の作業をもとに、人口転換期における人口増減の要因と地域的条件による差異の理由を明らかにする。(廣嶋、橋本)	研究会・学会等での報告と論文の発表。	
B2 B1 に関連して、当該地域におけるコミュニティ・社会結合(コウジュウ・ムラなど)の性格について検討する。(小林)	同上。	
B3 個別地域を対象に 19 世紀における人口移動の具体相について明らかにする。(中安)	研究会・学会等での報告。	
B4 2000 年～2010 年の島根県の人口に関する集落・地区データベースをもとに、GIS を用いて小地域単位の人口データを地図化する。(作野・藤山)	同上。	
C1 島根県立図書館蔵「県庁引継文書」をもとに、19 世紀後半の島根県における産業構成等の特徴を把握する。(鳥谷)	同上。	
C2 『邇摩郡治一斑』、『島根県市町村別統計書』などをもとに、20 世紀初め頃の島根県及び同邇摩郡における産業構成等の特徴を把握す	同上。	

る。(橋本)	
C3 国勢調査、工業統計などのセンサス統計を基に、1950年以降の島根県の産業構成等の特徴を把握する。(橋本・関・北山)	研究会・学会等での報告。
C4 干鰯の生産・流通や漁業組合の動向に即して漁業の発展と衰退について明らかにする。(仲野・伊藤)	同上。
C5 19世紀～20世紀初めにかけてのたたら製鉄の盛衰とその要因について明らかにする。(鳥谷)	研究会・学会等での報告と論文の発表。
C6 粗陶器、瓦の生産など窯業の展開について明らかにする。(鳥谷・橋本・関・北山)	研究会・学会等での報告。
D1 初代松江市長福岡世徳による地域振興策の特徴と歴史的意義について明らかにする。(竹永)	研究会・学会等での報告と著書の刊行。
D2 現代における隠岐海士町の地域振興策の特徴について明らかにする。(関)	同上。

**【平成23年度評価を踏まえた本年度計画の主な変更点または改善点】**

前提として、メンバーの交代(渡邊→関)、所属の変更(橋本)、新メンバーの追加(中安、北山)があることを申し述べておく。

昨年度は宗門人別改め帳のデータ入力や集落データベースの構築を主な課題としたこともあり、分析にもつづいた研究発表の機会を設定することが少なかったが、今年度については月例の研究会を開催し共有すべき課題・仮説の明確化を図ることにした。ただし、今年度についても史資料の所在確認や整理、データ入力という基礎作業は重視する。自治体蔵の文書でさえ、保存管理が適切になされず研究利用できない状態のものがほとんどであり、自治体における専門職員の絶対的不足、研究機関の少なさという山陰地方における状況に鑑みれば、こうした基礎作業に関わることこそが島根大学に求められる地域貢献であると考えられるからである。

また、研究フィールドについては引き続き石見東部を重点地域とするが、人口と産業の動態に関する通時的なデータについては、島根県全体を視野に入れて整備し、地域的差異の傾向を把握したうえで、重点的に取り扱う個別地域の位置づけを図りたい。さらに、重点地域に即して検討する事象は、人口動態と産業構造との関連に焦点を絞ることとする。

なお、具体的な政策提言を期間内にまとめるのは、時間的制約とメンバー的な条件からも困難と判断し、目標を過疎化が著しく進行する地域の特性を究明することにひとまず限定する。これにより、課題・仮説の共有化が容易になるようにしたい。

**10. 平成24年度経費明細** 研究項目と達成目標ごとに使用する経費を記入してください。(単位:千円)

- ・経費は本研究プロジェクトの遂行に必要な経費です。
- ・経費は政策的配分経費(a)(今回配分された金額)とそれ以外の資金(学内経費、外部資金)とし、それ以外の資金で充当させる場合は「配分経費以外(b)」の欄に金額を記入してください。
- ・研究計画の事項ごとに設備備品、旅費、謝金、消耗品費などに分けて、それぞれの明細を出来るだけ具体的に記入してください。
- ・単品の設備備品は配分経費(a)と配分経費以外(b)を合算して購入することはできませんのでご注意願います。

事項(品名)	(対応する研究項目番号)	配分経費(a)	配分経費以外(b)	合計(a+b)
宗門人別改め帳、旧村役場文書等のデータ入力、及び史資料の整理作業にあたるスタッフの雇用	A	1,600		1,600
研究会参加旅費 1泊2日×1人×6回(東京-島根) 1泊2日×2人×6回(滋賀-島根) 1泊2日×1人×8回(松江-大田) 1泊2日×1人×6回(松江-益田)	B,C,D	400	300	700
島根県内史資料等収集・整理・調査旅費	A,B,C,D	400	300	700
資料複写、研究図書購入	B,C,D	300	200	500
史料整理・データ入力謝金	A	300	300	600
<b>合 計</b>		3,000	1,100	4,100